

Public Hall

町公民館からのお知らせと話題

平成29年度町民大学開講式

- 日時 5月26日(金)
- 会場 町生涯学習センター・ホール
- 内容
 - 開講式 午前10時～午前11時30分
 - ・演題 「甲佐町の文化財雑感」
 - ・講師 石坂妙さん
(熊本県文化財保護指導委員)

※歴史に興味を抱き学びかけや、甲佐町の文化財について講話していただきます。

どなたでも参加できますので、ご近所お誘いの上、たくさんの方をお待ちしています。

- 公民館講座や町民大学などに関するお申し込み・お問い合わせ先
町教育委員会公民館事務局
☎096-234-2447(内線321)

フルート独奏で9曲を演奏。フルートの澄んだ優しい音色に参加者は聞きほれていました。独奏会が終盤にさ



▲松尾さんの奏でるフルートの演奏に聴き入る参加者

4月5日(水)上豊内公民館で、「認知症」をテーマに公民館出前講座を開催し、地域住民など約50人が参加しました。講座開始前には、自分の日ごろからの血圧数値を知ること、健康に留意していただくよう参加者の血圧

の中で笑いを欠かさないことで、免疫力がアップし健康を保つと、随所にユーモアを交えミニ講話を実施。町総合保健福祉センター木村真澄保健師が、認知症について人の脳を拡大した図を活用し、脳的作用・機能や認知症の症状について詳しく説明しました。

公民館出前講座 認知症と血圧測定

しかかると、自然と会場から手拍子が上がったりと歌詞を口ずさんだりして演奏者と参加者との一体感が生まれ、素晴らしいひとときを過ごしました。お孫さんと一緒に参加された方が、公演の終わりに松尾さんと握手していたのが大変ほほえましく思える中、本年度の町民大学を閉講しました。



▲木村保健師が脳の機能や認知症の症状を図を使って説明

測定を行いました。次に村上浩二公民館長が「笑いが健康につながるメカニズム」と題して、生活

Human Rights

人権 ～心豊かに暮らすために～

●水俣病をめぐる人権

水俣病が公式確認(1956年5月1日)されて60年が経ちました。水俣病がどのような病気なのか人々に正しく理解されなかったために、被害者や家族は差別・偏見を受け、大変つらい思いをしました。私たちは、水俣病に限らず何事においても、正しい知識を持つとともに、被害を受けた方の立場に立って考えることが大切です。

○水俣病が発生してどんな被害があったんだろう?

①健康被害

水俣病は、水俣湾周辺を中心とする八代海沿岸と新潟県阿賀野川流域で発生し、多くの人々が水俣病による健康被害に苦しみました。水俣病と認められた患者数は、平成25年12月31日現在で2,978人に上っており、被害者の苦しみは、今なお続いています。

②環境汚染

チッソ水俣工場の排水により、水俣湾では水銀を含んだ大量のヘドロの厚さが、4㍍に達するところもありました。また、水銀によって水俣湾の魚介類は汚染され、人々は魚を捕ったり食べたりすることができなくなりました。

③差別・偏見

水俣病の原因がまだはっきりしなかったころから、水俣病は空気などを通じて人から人へうつると誤解され、患者が出た家庭には、人々が近づけなかったり、就職・結婚が断られたりするなどの差別がありました。

これらのいわれのない差別や偏見(偏った見方)は、被害者や家族を苦しめました。

「はじめて学ぶ水俣病」より

Library

町生涯学習センター図書室からの5月のおすすめ図書

Library Information

図書室からのお知らせ

■本の入荷について

図書室では、新刊本や話題の本など、新しい本を入荷しています。

本のリクエストについても、図書室カウンターにて受け付けています。皆さんの読みたい本や気になる本などがありましたら、お知らせください。

また、お探しの本などがありましたら、お気軽にカウンターにご相談ください。

- 図書室の利用や、図書の検索・リクエストなどについてのお問い合わせ先
町生涯学習センター図書室
☎096-234-2447(内線331)

江戸の介護をテーマにした時代小説 朝井 まかて著 / 『銀の猫』



文藝春秋
小説

お咲は、年寄りの介護をする「介抱人」。口入屋「鳩屋」の主人・五郎蔵とお徳夫婦に見守られ、誠心誠意働くお咲は、「誰もが案になれる介抱指南の書」を作りたいという貸し本屋・佐分郎太から協力を求められた…。長寿の町・江戸に生きる人々の姿は現代の介護事情にも通じていて、温かい読後感の中にも、深く考えさせられる1冊です。

心を込めて日本国憲法の大切さを訴える 松元 ヒロ作 / 『憲法くん』



講談社
児童書

日本国憲法施行から50年目にあたる1997年から、芸人・松元ヒロさんが、事あるごとに演じているのがひとり芝居「憲法くん」です。日本国憲法を人間に見立ててユーモラスに描き、その大切さを訴える8分ほどの短い芝居が絵本になりました。5月3日(水)は憲法記念日。親子で憲法について考えるきっかけにしたい1冊です。

町生涯学習センター図書室のご利用について

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週火曜日、年末年始
- 貸出冊数・期間 1人5冊まで、15日間

元気が湧いてくる怒りの金言 佐藤 愛子著 / 『九十歳。何がめでたい』



小学館
一般書

大正12年生まれ、現在93歳の大作家の話題のエッセイ集。自分の身体に次々に起こる「故障」を嘆き、時代の「進歩」を怒り、悩める年若い人々を叱りながらも、あたたかく鼓舞しています。難題(かんなん) 辛苦を乗り越えた著者だからこそ書ける、人生をたくましく生きるための「金言」の数々。大笑いした後に、深い余韻が残ります。

心地良いキッチンで日々の生活を楽しむ リンネル編集部編集 / 『家仕事の達人15人の素敵キッチン』



宝島社
教育・娯楽

家の中でもキッチンは、暮らしの工夫やこだわりが詰まった場所。本書では、日々の暮らしを楽しむ方々のお家におじゃまして、キッチンの棚の中やツールを紹介しています。収納ルールやアイデア、器、インテリア、雑貨の使い方など、心地よいキッチン作りの工夫が満載。暮らし上手になるための、お役立ちキッチンアイデア集です。

山田悠介、私が好きな小説家の1人で、その彼がデビュー10年目という節目に書き上げたのがこの作品である。

この本は4つの短い話で構成されており、読みやすく、全話全く別々の物語のように感じる。そして、3話目まではハッピーエンドとはほど遠い、どこかもどかしさを感じる終わり方になっているが、最終話の4話目を

今月の案内人



深水 麗圭さん
(甲佐小学校教諭)

を読み終えたあとは、「ああ、こういうことなのか!」と全てがつながり、すっかりした気持になる。

～ My Favorite Story ～ 私のおすすめ図書

『BLACK』(山田 悠介著)
事故で未来を奪われた野球少年が、勇気を与えてくれた老プロ野球選手に命を賭けた『恩返し』をはじめ。絶望の中で生きる意味を問う短編小説。

いずれも「恩返し」という目的を達成することを目前にして、力尽きてしまった者たちの悲願の物語で、1話、2話、3話…と読み進めていくうちに、自分自身の中にやりきれない気持ち膨らみ、いつしか小説の中の世界に入り込んでしまっている。

人それぞれの人生や、この作品のタイトルである「BLACK」の意味、さまざまなことを



考えさせてくれる1冊である。

- あなたの「おすすめ図書」をご紹介してみませんか?
町生涯学習センター図書室
☎096-234-2447(内線331)